

アグロ・イノベーション2018

生物の力で農産物の 付加価値を高めよう！

生物防除って何？

微生物や害虫の天敵、性フェロモンなど、自然界にある“生物の力”を利用する、農産物にも人にもやさしい防除方法です

アグロ・イノベーション2018に出展します

日時／平成30年 **11月20日(火)～22日(木)**

10:00～17:00 (出展者セミナー：各日13:50～14:35)

場所／東京ビッグサイト 西展示棟 1・2ホール
アグリ・フードビジネス展内にて展示

<出展趣旨>

おいしく安全な農産物の生産には、植物の病気や害虫の被害を抑える技術が欠かせません。その技術のうち、微生物や害虫の天敵、性フェロモンなど、自然界にある“生物の力”を利用する技術を生物防除といいます。今回の展示会を通して、生物防除を皆様に広く知って頂きたい、生物防除が農産物の付加価値を高める可能性について、実際に取り組まれている産地事例を紹介します。

<日本生物防除協議会 (JBCA) >

日本生物防除協議会は、「生物の力」を利用した生物農薬の健全なる利用促進と発展を目指した活動を行う、生物農薬及びフェロモン剤メーカーの団体です。

会員企業：アリスライフサイエンス(株)、石原産業(株)、出光興産(株)、(株)エス・ディー・エス バイオテック
協友アグリ(株)、信越化学工業(株)、住友化学(株)、セントラル硝子(株)、日本曹達(株) (50音順)

事務局：〒104-6591 東京都千代田区丸の内3-1-1 (出光興産株式会社アグリバイオ事業部アグリ事業一課内)

TEL: 03-6895-1335 FAX: 03-3284-0837

ホームページ: <http://www.biocontrol.jp/index.html>

生物防除導入の事例紹介

①産地 ②作物 ③使用している生物防除



- ①栃木県 (JAしもつけ)
- ②イチゴ
- ③天敵製剤

【生物防除に取り組まれている方のコメント】

天敵製剤導入により、防除が難しかったハダニの心配が少なくなりました。農作業の省力化にもつながり、費用対効果も満足しています。



- ①山形県 (JA庄内みどり)
- ②パプリカ
- ③天敵製剤、フェロモン剤

【生物防除に取り組まれている方のコメント】

農薬散布回数が大幅に減った上に、パプリカの秀品率が大幅にアップし、いいことづくめでした。



- ①宮崎県
(JA綾町/JA宮崎中央)
- ②きゅうり/ピーマン
- ③天敵製剤、微生物殺菌剤

【生物防除に取り組まれている方のコメント】

生物農薬は、化学農薬と違って使用回数に制限がないので、何回も継続して使用できる点がメリット。結果として、予防的に使用することで難防除の病害虫が防除できるようになった。



- ①鹿児島県 (喜界島)
- ②かんきつ
- ③微生物殺虫剤

【生物防除に取り組まれている方のコメント】

島一丸となって取り組むにあたって“農薬散布”に抵抗のある人もいたが、微生物農薬のため人やペット等にも安全で、町民も安心して使用することが出来た。

生物防除を通して農業生産に貢献！！

■ “ゆたかな食卓を守る”

同じ化学農薬を繰り返し使用すると、病害虫に抵抗性がつき、化学農薬が効き難くなることがあります。生物農薬はそのような病害虫にも有効です。生物農薬は病害虫の抵抗性が発達しにくく、農産物の安定生産に貢献します。

■ “おいしい安心”

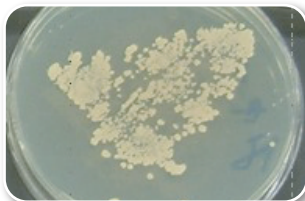
これまでの化学農薬主体の防除に生物農薬を組み込むことで、化学農薬の使用量を抑えることが出来ます。生物農薬は有機農産物にも使用でき、生産者にも消費者にも安心できる農産物づくりに貢献します。

■ “人と地域を未来につなぐ”

生物防除を導入することで、農業生産にかかる労力の軽減や地域の環境に配慮した病害虫の防除が実現します。地域にも使用者にも優しい技術で、持続可能な農業に貢献します。

生物農薬の仲間たち

微生物殺菌剤



- ・納豆菌の仲間などの有用微生物を利用
- ・トマトやきゅうりなどの野菜類で利用

微生物殺虫剤



- ・害虫のみに感染するカビの仲間を利用
- ・かんきつや野菜類などで利用

フェロモン剤



- ・害虫の性フェロモンなどを利用
- ・りんごやももなどの果樹や野菜類で利用

天敵製剤



- ・害虫を食べる、天敵となる虫を利用
- ・いちごやピーマンなどの野菜類で利用